

事務事業 No./名称	■サービス部門 生涯-15 □支援部門		史跡買取事業				
主管課	文化財課	関連課	世界遺産登録推進担当				
分野名	歴史環境						
目標 (目標値)	国指定史跡の公有地化を図る。 買取率100%						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
事業の対象者数							
運営資源状況	決算値(千円)	242,929	226,049	194,923			
	(国・県)	195,408	184,379	157,898			
	(負担金等)						
	(一般財源)	47,521	41,670	37,025			
	人員配置数	0.5	0.5	0.5			
	人件費(千円)	4,845	4,813	4,749			
	協働のパートナー						
事務事業運営経費	総事業費(千円)	247,774	230,862	199,672			
	市民1人当りの経費(円)	1,399	1,307	1,131			
	対象者1人当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
史跡買取面積(m ²)	○	目標値	22,455	17,207	43,067	21,118	655
		実績値	1,445	1,029			

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。
小事業名	H22決算値	評価 適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
史跡買取事業	242,929千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒	□A ■B □C □D □E
	事業の概要	国指定史跡の公有地化を図る。		
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題	史跡大町釈迦堂口遺跡土地買取事業について、土地所有者との史跡買取交渉に時間を要したこと及び土地所有者が隣接の土地所有者との境界確定に時間がかかり、22年度中に所有権移転等の手続きが終了しなかった。			
課題解決のための取組	土地所有者に所有権移転手続きの速やかな履行を促していく。			
未解決の課題	計画外の買取要望については、対応出来ない。			
今後の方針	実施計画に計上し、計画的に実施していくが、緊急に購入しなければ事業推進に問題があるものに対しては、優先順位を立て買取計画を見直していく。			
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒	B	※ □事業完了 課長名 小林 正敏

